

映画新聞

MOVIE NEWS

10月31日(木曜日)

映画「野球部員、演劇の舞台に立つ!」製作配給委員会

〒834-0047
福岡県八女市稲富111-1
電話/FAX:0943-24-9061
email:koushien-642@hi3.enjoy.ne.jp



発行人:鈴木一美
編集:白石ルリ子
高尾美由紀
稲富朋子

数々の評価実績

- ◇文部科学省特別選定作品 (一般映画 青年向き・少年向き)
- ◇ぴあ映画初日満足度ランキング第1位
- ◇ドリバス上映リクエストランキング第1位
- ◇鹿児島県知事 推薦
- ◇鹿児島県教育委員会 推薦
- ◇鹿児島県高等学校野球連盟 推薦
- ◇助成:文化庁文化芸術振興費補助金

鑑賞者の99%が大満足

7月21日(日)イオンシネマ戸畑、22日(月)小倉昭和館にて、北九州映画サークル協議会の7月例会として「野球部員、演劇の舞台に立つ!」を上映、鑑賞しました。

私たちが北九州映画サークル協議会は、主に北九州市在住の映画ファンで構成する会員制の映画鑑賞団体で、創立66周年を迎えます。現在、会員数は約510名で、会費はサークル会員900円、個人会員1100円で運営しています。例会は前記しました映画館を借りて、毎月2会場、3回上映し、例会作品は会員からのアンケートを元に、配給会社と交渉し、最終的にはサークル代表者会議で決定しています。

今回の「野球部員、演劇の舞台に立つ!」は小倉市コナシネマワールドにて劇場公開されましたが、観た会員から「ぜひ例会でみんなで観よう!」という強い推薦がありました。

私もその中の一人です、若い頃から中山節夫監督作品は全て観ており、今回も丁寧で誠実な作風に感動していました。また、失礼ながら80歳を過ぎて、こんなに瑞々しい映画が撮れるのかという驚きもありました。みんな話し合い、例会に決定し、夏の甲子園予選が始まる時期がいよいよと7月例会にしました。

7月21日が参議院選挙に決定し、台風による雨の心配もありましたが、当日は合計350名を超える方が鑑賞していただきました。鑑賞後の感想も「楽しくもあり、切なさもあり、さわやかさいっぱいで、観た後に清々しさの残る作品」という感想が代表されるように大変好評でした。ひとくちアンケートで、「大変良い」が75%、「良い」が24%と合わせると99%で、ほとんどの会員が満足できる例会になりました。

こういう素晴らしい映画を製作配給していただいた中山節夫監督をはじめスタッフのみなさんに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



小倉昭和館 7/21

映画愛好家による上映会!!



イオンシネマ戸畑 7/22



北九州映画サークル協議会
事務局長 半晴 武郎

鈴木Pの故郷で上映会

初夏の青葉に陽が降り注ぐ7月3日、我が母校にて当作品の上映と自身の講演が行われました。この日は、大仙市立大曲西中学校全生徒、内小友小の5年・6年生、大川西根小の4年・5年・6年生と小中校の教職員、保護者の皆さん、地域の皆さん、私の同級生たち、そして老松博行大仙市長はじめ市の行政と教育関係者、総勢300人を超える方々に観てもらうことができました。

上映に先立ち大曲西中学校長の築地先生から、生徒たちに充実した鑑賞



鈴木Pの話を
真剣に聞く生徒

賞をもらうために宿題を出してほしいとの要望がありました。私が小中学生の頃、漢字や言葉の理解に乏しかったことを思い出して、当作品のテーマでもある「葛藤」について、「読めるか」「書けるか」「意味は分かるか」「使えるか」の4点を宿題として出しました。結果は上々で全ての生徒に理解が浸透していることに驚きました。

この日の上映会は、「葛藤」という言葉をしっかりと覚えたこと、情操教育の観点からも当作品が多くの子供達の皆さんの心育に一助になったかなと思いをしました。温かった故郷に感謝です。

上映後、校長先生よりお礼の手紙を頂きましたので、ここに紹介させていただきます。

先日のPTA教育講演会では、映画作成の裏話や苦労など、私たちがなかなか見聞きすることのできない貴重なお話をさせて頂き、誠にありがとうございました。また、映画上映では、子供たちにとって身近な内容であり、子供たちは鑑賞を通して多くのことを学んだり考えたりすることができました。私たち教師や保護者にとっても、気付かされる機会が多く、本当にいい映画を拝見できたこと心より感謝申し上げます。

秋田県大仙市立
大曲西中学校長 築地 高

脚本・助監督の母校で千人が鑑賞

9月27日当作品で脚本と助監督を担当した片島章三氏の母校、熊本県立熊本西高等学校で、上映&対談を行った。体育館は千人を超える生徒と、同窓会の皆さんで埋め尽くされた。卒業以来40年ぶりに訪れた片島氏は後輩や同窓の皆さんの熱烈的な歓迎に当初照れと戸惑いがあったようだ。

片島氏に感想を聞いてみると「幅広い世代に興味を持って貰うため、エンタテインメント的要素を入れた脚本にしたのだが、生徒達がどんな反応を見せるのか興味津々で臨んだ。最後に生徒代表の言葉を聞いて、多少なりとも意図は伝わったのかなと、ちょっとホッとした。是非、後輩達も「葛藤」しながら、それぞれの「甲子園の先にあるもの」を見つけて欲しい。」とのコメントをくれた。

映画を通して生徒と片島氏が40年の時空を超えて繋がった瞬間でもあった。



片島章三氏



体育館に集まる約千人の生徒たち

【映画製作に関わって】軌跡からの奇跡③

「大決心」で活動開始

2013年12月に鈴木プロデュサーと出会った日以降、それまで漠然と考えていたことが、急に現実味を帯びてきました。それは、「JAの退職」です。映画の製作を手伝うと言ったものの、まだ具体的に何をやらべいいのかわからない状態でしたが、果たして動かない状態ののだろうか、と感じていました。前回書いたように、家庭の事情などもあり、勤めも潮時かなと思っていた矢先の映画製作の話です。結果的にこの話が迷っていた私の肩を押す形となり、私は妻に「JAを辞めたい。辞めて農業をやりたい。」と打ち明けた。妻は「あなたの思ったようにやっていたらいいよ。」と言ってくれ、その時点で35年勤めたJAを定年前に退職する一大決心をしました。

翌年3月にJAを退職した私は、いろいろと気を遣っていた重圧から解放された心地よさを感じつつ、いよいよ始まるであろう映画製作の準備に不安と期待の入り混じった心境でいました。鈴木プロデュサーと今後の進め方を打ち合わせたり、市内外の有力者・関係機関を訪問し、映画製作についての協力を要請して回りました。6月には鈴木プロデュサーが脚本家の方を八女に連れて来られ、脚本執筆のために市内各所を案内しました。

そしてこの年の12月12日、悪性リンパ腫と闘っていた次男の理史が、ついに病魔に勝つことができず29歳の若さで逝くという大きな悲しみに襲われたのです。

映画スタッフのご厚意により息子の名前「平井理史」を役名として使っていたいただきました。(続く)

映画「野球部員、演劇の舞台に立つ!」支援する会
事務局長 平井靖文



平井理史役を演じた鹿毛喜季さんと平井氏

各地の劇場・施設で絶賛上映!!

- ・長野県塩尻市 塩尻劇場・東座
- ・熊本県天草市 本渡第一映劇
- ・沖縄県沖縄市 シアタードーナツ
- ・東京都武蔵野市 吉祥寺プラザ
- ・東京都狛江市 狛江市公民館
- ・福岡県八女郡広川町 太田公民館
- ・秋葉原UDXシアター
- ・TOHOシネマズ西宮OS
- ・TOHOシネマズ水戸内原
- ・TOHOシネマズ仙台



観てくださった方の多くが、爽やかな感動作だったとおっしゃってお帰りになりました。大阪や名古屋からもわざわざいらしてくださった方もいて感激でした。

期間中、常連のご夫婦もみえましたが、なんと息子さんが八女市でいちごを作っている



沖縄で初上映 3/1~3/31 シアタードーナツ



広川町太田公民館にて

8月23日、福岡県八女郡広川町太田公民館にて上映しました。映画上映は広川町太田区祭りの前夜祭として初の試みです。台湾在住で久留米に帰省中の親子や、外国人労働者のインドネシア人、野球部の子供たちなど、国際色豊かな上映になりました。区民の皆さんで協力し合っただけでなく、地域を回ったり、早朝から椅子を並べたり、まさに住民の皆さんが作り上げた上映会でした。



熊本県天草市 9/7~9/20 本渡第一映劇

花冷えの3月31日(日)、吉祥寺プラザで当作品が再上映されました。ドリパストリクエストランキングで上位になるのは12回目になります。200名の会場はほぼ満席でした。多くが林遣都さんのファンの皆さんでしたが、主題歌を歌うグッズドカミングのファンの方、そしてこの映画のリピーターの方々もいらっしやいます。



グッドカミングと一緒に大合唱

した。製作の鈴木氏、中山監督、主題歌を歌うグッドカミングの桐明氏と原口氏、そして私の司会で舞台挨拶をしました。脚本兼助監督の片島氏、助監督の金田氏、脚本の山崎氏の他、演劇部員役の吉田さんと古賀さんも駆け付け登壇してくれました。2人は今年春から地元八女市を出て上京し、大学で演技を学び始め、夢に向かって踏み出しました。グッドカミングの呼びかけで、主題歌の「ユビノサキへ」を観客と一緒に歌い、二人への応援歌となりました。



9/15 吉祥寺プラザ 舞台挨拶の様子 左から舟津大地、渡辺佑太郎、田中奈月



桑山和之

7月20日、東京都狛江市の公民館で、午前・午後の2回上映と講演会を致しました。狛江市は、中学・高校・専門学校時代を過ごした僕の青春の地です。同窓生の友人たちも駆けつけてくれました。80代の方からは「そんなに期待しないで、見に来ただけだ(笑)しっかりと内容があつて、何より青春時代を思い出して、若返りたわ。」と嬉しい感想をいただきました。



桑山プロデューサーの地元 東京都狛江市で上映&講演

音声ガイド付き上映が好評

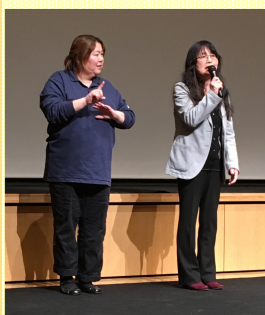
3月17日、日曜日、おひなす八女はちひめホールにおいて、「製作・上映応援券」で鑑賞できる最後の上映会が開催されました。午後2時から上映の回は視覚障害者の方も鑑賞できるよう「日本語字幕版・音声ガイド付き」の上映でしたが、70名という多くの方が鑑賞されました。

私も自身も「音声ガイド」付きは初めて鑑賞しました。それぞれのシーンでその人物の行動や心情が説明され、通常版を10回ほど観た私でさえ「ああ、そういうことだったのか」と改めて気づいた点もあり、よりわかりやすく観ることができました。

鑑賞後の聴覚障害者の方は、「字幕が出たのでとても楽しめた。普通日本映画では字幕が出ないので私たち聴覚障害者は観ることができないが、このように日本語字幕が出るのと私たちでも日本映画を楽しめるので、こういった映画がもっと増えてほしい。」と言われました。

最近では一般の映画館でも、「抱っこでシネマ」と銘打って、子育て中のお母さんが子どもと一緒に鑑賞でき、少々赤ちゃんだよや幼い子どもさんが泣いたり騒いだりしても平気な上映会などが少しずつ増え、映画を観たくてもいろいろなき事情でなかなか映画を観ることができない方も、映画を楽しむことができる取り組みが増えてきています。映画館の鑑賞施設の改善も当然必要ですが、映画自体も日本語字幕版や音声ガイド付きの映画がもっともっと製作され、障害をお持ちの方でも映画を楽しむことができる社会になってほしいものです。

勤める会 事務長 平井靖文



原作者 竹島氏の 舞台挨拶も手話で



【原作本】 原作：竹島由美子 (定価1728円)



【主題歌CD】 「ユビノサキへ Good Coming



【パンフレット】 (定価700円)



【缶バッジ】 <全4種類> (1個 300円/4個 1000円)

サイズ38mm

上映会主催者募集!

製作配給委員会では上映会主催者を募集しております。素材は、通常版に加え、英語版、バリアフリー版(日本語字幕・音声ガイド)もご用意しております。

※詳しくは製作配給委員会(0943-24-9061)までお問合せ下さい。